

本稿は、8月22・23日に行われた自治労連第43回定期大会での代議員発言について、加筆・修正したものです。

## コロナ禍だからこそ住民のいのちと健康を守る 病院の充実をめざそう

静岡自治労連

本部方針を支持し補強する立場で、静岡自治労連医療部会のこの間の運動を3点報告させていただきます。

### 自治労連が示した「3つの取り組み」を 医療部会で実践、職場環境改善へ

1点目は、コロナ対応職員の労働条件改善のため、自治労連方針を実践し、県議会議員と連携した取り組みの報告です。静岡自治労連には11病院が加盟し、そのうち6病院がコロナ指定病院になっています。感染拡大当初は、ダイヤモンド・プリンセス号から下船した患者の入院が始まり、静岡では、感染症に対する知識不足、風評被害などの不安で、入院の事実を隠す日々が続きました。

こうしたなか、自治労連から示された「コロナ関連職場で働く職員が安心して業務に専念できる3つの取り組み」を医療部会で実践し、職場環境改善を取り組みました。はじめに実施したのは「医療従事者の宿泊確保」です。中東遠総合医療センター労組は、執行委員会でコロナ対応の看護師から「家族から『自腹で仕方ないから自宅に帰って来ないで』と言われた」、「宿泊が一番の悩み」という声を聞き、すぐに現場の想いを日本共産党の県議

会議員に伝え県議会で取り上げてもらいました。

同時に医療部会では、県の健康福祉部へ申し入れを行い、「感染病棟に配属された職員が防護服を着たときには涙が出てきた」、「保育園で子どもを休ませて欲しいと言われた」、「タクシーに乗車拒否された」など痛ましい実態を伝え、改善を求めました。対応したコロナ対策課長は、「職員の生の声を聞きたかったので、とても助かりました。県としてもできるだけことはしていきたい」と回答し、改善を約束しました。その後県は、医療従事者の宿を上限11,500円まで合計2億円の予算を補助することを決定しました。医療部会はこの成果を自治労連傘下の11病院だけではなく、地域医療構想で名指しされた病院の事務長にも伝え広げていきました。

また、浜松医療センターは、医療従事者への慰労金やワクチン早期接種を組合で働く書記にも行うよう当局と交渉しました。結果、ワクチンは職員と同時接種が可能となりましたが、慰労金は当局から申請できないという回答でした。しかし、組合会議で相談し、書記に対して職員と同額の20万円を支給することを決定し、書記からも喜ばれました。

### 要求書「ひな形」作成の運動が 処遇改善につながった

2点目は、要求書「ひな形」作成による運動が処遇改善につながった取り組みです。コロナに関する手当や慰労金など、この間病院で勝ち取った新たな手当を、毎月の医療部会で交流しながら、まだ勝ち取っていない病院のために要求書「ひな形」を作り、それぞれの病院当局に提出してもらいました。今までの要求書提出とは違い当局からは、「ほかの病院の情報を知りたい」、「県内の状況はどうなっているのか」など、聞かれることが多く、情報を求められる場面もたくさんありました。また静岡では、昨年末から今年のはじめにかけて、2つの病院で院内クラスターが発生しました。

医療部会では、当該病院で働いている職員の実態を会合で語ってもらい、医療部会幹事に、zoomで経験を語っていただき、クラスターが発生した場合の対応「ひな形」を作成し、全体で共有してきました。その後院内クラスターが発生した単組からは「あのひな形のおかげで、院内感染対策会議に執行委員長も参加し、情報伝達が早くできた」と感謝されました。

### 住民アンケートで現在の医療提供を望む声 交渉で統廃合反対の思い伝える

3点目は地域医療構想についてです。自治労連の「こんな地域と職場をつくりたい」運動として実施した蒲原病院、湖西病院の住民アンケート調査は、75%以上が現在の医療提供を望んでいるという結果となり、市民への報告集会も行ってきました。しかし、コロナの感染拡大によって病床がひっ迫しているにも関わらず、厚労省は統廃合を止めようとし

ません。医療部会は県の健康福祉部と4回に渡り統廃合反対の交渉を行い、今年5月の交渉では、蒲原・湖西両病院の住民アンケート調査結果と一緒に運動を進めてきた「住民の会」のみなさんの思いを伝えました。

これに対して保健福祉部は、「県としても、名指しされた13病院はこのまま存続したいと考えている。この間、国に対して意思表示をしてきた。今後もしていきたい」と、大きな成果を勝ち取ることができました。医療部会では、今後も住民運動と連携した取り組みを広げ、病床削減ではなく病院の充実をめざした取り組みを進めていきます。

現在、コロナの感染拡大は今まで以上に危機的状況にあります。組合の運動も制限され、要求実現には知恵と工夫が必要ですが、コロナ禍だからこそ住民のいのちと健康を守る病院の充実をめざし、今後も奮闘していくことを決意して発言を終わります。ありがとうございました。